

# 「高低差」地形ウォーク第13回

## 断層が導いた奇跡の湯 有馬温泉

2023年12月7日(木)

<参加メンバー> 10人(男性6人、女性4人)

<天候> 晴れ

### <コースタイム>

阪急バス宝塚 9:42~10:40 有馬温泉 10:55~観光案内所でマップ  
入手~金の湯~11:10 御所泉源~温泉寺~念仏寺~極楽寺~11:25  
太閤の湯殿館~湯泉神社~11:55 愛宕山天狗岩~12:10 炭酸泉源  
(昼食休憩) 12:50~水天宮~妬泉源~天神泉源~有明泉源~13:50  
銀の湯入浴 14:50~有馬温泉バス停 16:23 宝塚行きに乗車。  
有馬での行動時間: 約3H 歩行距離: 5Km

### <山行の概要>

有馬温泉は六甲山東北麓の谷間にあり日本書紀に出ているほどの古い温泉である。ここはいつも六甲ハイキングの下山時、入浴し一杯飲んでバスに乗って帰るといふ、いわば素通りの町であったが今回はじっくり地形や歴史・遺構など探訪できた。一つは有馬温泉の谷間地形を等高線図と比較しながらよく理解できた。二つ目は多くの泉源、偶然親切な泉源管理の方に詳しく説明していただき泉源の構造や保守のご苦勞を知ることができた。この表には出ない裏方の方々の労力なしには温泉は成り立たないことを思い知らされました。三つ目は秀吉ゆかりの湯殿館で発掘された岩風呂遺構や当時の館の遺物を実際に見られたことなど大満足の日となりました。(Gi)



阪急バス有馬温泉バス停からスタート



コース、地形・歴史、見どころなどミーティング



太閤橋を渡る



ねね橋を左に見て



金の湯を右折



御所泉源、噴出湯を受け入れ分配する貯槽



湯泉寺への階段



湯泉寺



極楽寺



太閤の湯殿館



秀吉の岩風呂、地中から発掘された



蒸し風呂遺構



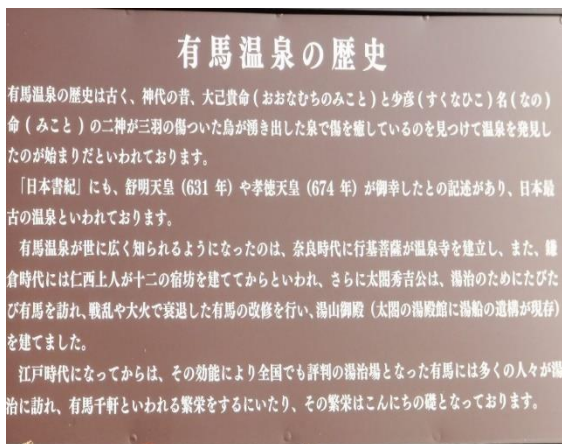
秀吉の湯殿の棟に乗っていた龍の瓦



北政所(秀吉正室)の別邸、念仏寺



温泉寺を建立した行基上人



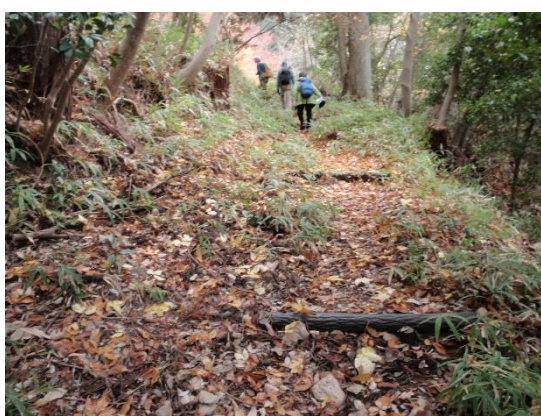
有馬温泉の歴史の説明板



湯泉神社鳥居



湯泉神社



愛宕山への道、落ち葉が脚に優しい



頂上の天狗岩



天狗岩を囲んで



炭酸泉源公園



泉源は今は涸れている



楽しい昼食



名残の黄葉を愛でる



昼食後は水天宮へ



水天宮、祠の下に井戸がある→



→今も透きとおった水が湧いている



古い道標。「右六かう山、すく京大坂」



赤い鳥居を左折すると→



→妬(うわなり)泉源



妬(うわなり)泉源



続いて天神社へ



天神社



天神泉源。○の泉源管理の方が→



貯湯槽の蓋を開けて中の状態や→



温泉が自噴する様子を見せてくれ→



ご親切にさらに次の泉源まで案内してくれた



有明泉源



温泉の自噴の様子



高台で泉源の管理について説明してくれた



親切な泉源管理のおじさんとツショツ



最後は銀の湯で入浴



有馬温泉のしくみ 海洋プレートが地下に沈み込む際、海水も巻き込み、マントルによって一気に沸き立った海水は、断層がつくった岩の割れ目を通して上昇。この時、海洋プレートに堆積した石灰岩を分解し炭酸ガスを発生させ、地中に含まれる鉄分を湯に溶かしながら上昇し地上に姿を現す。温泉は600万年の時間をかけて上ってくるという(NHK「プラタモリ」制作班監修「プラタモリ16」掲載の図を元に作成した)

火山がないのになぜこんなところに温泉が？